

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

| | | | | | | | | | | |
|---------|---|--|--|---------------------------------------|---------|---|---|--|--------|--|
| 事業番号 | | 12 02 01 | 中期総合計画主要施策番号 | | 2 - 05 | | 担当課 | 部・課 | 会計局検査課 | |
| 事業名 | | 建設工事等の検査・調査の実施 | | | | 内線 | | 3853 | | |
| | | | | | | E-mail | | kensa@pref.nagano.jp | | |
| 事業の概要等 | 事業の目的 | 県発注工事の品質を確保するため、厳格で公正な検査の実施 法遵守による元請、下請のより良い施工体制の確立 入札に係る不正行為の排除を行う。 | | | | | | | | |
| | 事業の必要性 | [現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] 工事品質は厳格で公正な検査等により確保される現状にある。建設業法や指針等に基づく適正な施行体制が完全に確立されていない。県発注工事における不正行為防止のための監視が必要である。 | | | | | | | | |
| | | [原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] 受注競争の激化による工事価格の低下。営利優先の弊害。関係法律遵守への意識希薄と認識不足が発生している。 | | | | | | | | |
| | | [課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] 工事等の検査や指導監査により、不正工事の排除と工事品質を確保する。元請・下請調査等により、関係法律等遵守による施工体制を確立する。低入札価格調査による工事品質の確保と、談合情報の監視による不正行為の排除を図る。 | | | | | | | | |
| | 事業内容 | ・800万円以上の建設工事の検査及び指導監査、建設工事に係る500万円以上の委託業務の検査 ・工事の元請・下請関係に係る調査、指導及び助言 ・低入札価格及び入札談合情報に係る調査審議 | | | | | | | | |
| 実施期間 | H15 ~ | | 根拠法令等 | 建設業法、建設産業における生産システム合理化指針、労働基準・安全衛生法 他 | | | | | | |
| 成果と達成状況 | 事業の目指す成果 | | 達成度(期待どおり)の判定基準(H20) | | | 達成状況 | | 評価 | | |
| | 不正工事の排除、工事品質の確保 元請・下請関係適正化 談合等不正行為の排除 | | しゅん工検査の適正実施、指導監査と 抜き打ち検査によるカバー率90%以上 元請・下請の調査等による問題発生 の未然防止、「下請110番」における県 発注工事の相談件数の減 情報提供案件の調査完全実施 | | | しゅん工検査等の修補指示及び指導 監査と抜き打ち検査によるカバー率は 98.2%で、適正な検査が出来た。 「下請110番」の相談件数は減少傾向 にあったが、年度末の急激な経済情勢 の悪化に伴い32件に増えた、しかし元 請・下請調査を実施した箇所について は、問題の発生がなかった。 2件の調査依頼があり、公正入札調査 委員会で審議した。 | | a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下 | | |
| 事業コスト | 区 分 | | 単位 | 19年度 | 20年度 | 21年度(当初) | 20年度の概要 | | | |
| | 最終予算額 (A) | | 千円 | 10,830 | 10,083 | 9,468 | 国庫・県単 公共・県単 | | | |
| | 決 算 額 (B) | | 千円 | 8,014 | 7,090 | | 実施方法 直接 | | | |
| | B(H21はA)のうち一般財源 | | 千円 | 1,541 | 1,324 | 1,694 | 歳出節別 旅費 1,158 内訳等 需用費 3,126 賃借料 1,468 備品購入 875 | | | |
| | 概 算 人件費 | | 人 | 32.00 | 32.00 | 32.00 | (単位: 千円) | | | |
| | 概算事業費 (B(H21はA) + C) | | 千円 | 236,494 | 235,858 | 238,236 | | | | |
| 事業実績 | 内 容 | | 単位 | 19年度 | 20年度 | 21年度(予定) | 左記以外の20年度の実績 | | | |
| | 工事検査実施状況 | | 件 | 4,963 | 4,182 | 4,200 | | | | |
| | 元請・下請適正化調査 | | 件 | 466 | 477 | 200 | 工事等修補指示1,452件(うち文書指示3件) | | | |
| | 低入札価格調査 | | 件 | 6 | 8 | 8 | | | | |
| 事業の課題 | 区 分 | | 判 定 ・ 説 明 | | | | | | | |
| | 事業のニーズの変化 | | 増加 | 横ばい | 減少 | 判定の説明 | 是正や手直しが必要な工事には修補指示を行い、工事品質の確保が必要である。 元請・下請調査による指導等を行った現場では、法令遵守の施工体制が確立され、問題の発生がなかった。 検査予約システムによる事務簡素合理化を引き続き図っている。 | | | |
| | 県の関与を見直す余地 | | 余地なし | 当面余地なし | 余地あり | | | | | |
| | 有効性を高める余地 | | 余地なし | 当面余地なし | 余地あり | | | | | |
| | 効率性を高める余地 | | 余地なし | 当面余地なし | 余地あり | | | | | |
| 課題の総括 | | 発注量の減少及び価格競争が激化するなかで、工事品質の確保が県民の信頼に応えることであり、発注機関から独立した工事検査部門による厳格で透明な検査と、低入札価格調査による契約前確認が求められ、県発注工事がある限りこの事業は必要である。 元請・下請適正化調査は、現場ごとに懸念事案の指導・助言により問題を未然に防止している。また調査の実施により各請負業者の認識が深まりつつあるが、年度末の急激な経済情勢の悪化に伴い「下請け110番」の相談件数が増えている現状から、今後下請調査を重点とし、相談件数の減少に繋げるためにも継続が必要である。 | | | | | | | | |